

『ミュージアムDX実践ガイド』の活用法

～「これから取り組む現場」にとって必要なこと～

早稲田システム開発株式会社 代表取締役 内田剛史



自己紹介

どちらも
もうない…

こっちは
大丈夫



平成4年創業以来、
博物館専業

I.B.MUSEUM SaaS
(博物館向けクラウド)

導入施設はまもなく
700館に到達

内田剛史（うちだたけし）

昭和41年6月 兵庫県西宮市生まれ

甲子園球場に最も近い西宮東高校から

当時箕面の山奥にあった

大阪外国語大学イスパニア語学科を卒業

第一勧業銀行（現・みずほ銀行）に14年勤務

平成16年に早稲田システム開発株式会社代表に。

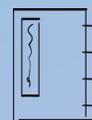
就任後20年と少し。

私が今日ここにいる理由

小規模館を中心に毎年200館近くを訪問。

学芸員にも
コンピュータにも
縁のない人生

本日の話



1

The Reality of Small Museums

「DXどころではない」現場の話

法律も変わった。環境も変わった。それはわかるけれど。

2

The “switch” that activates the challenge

チャレンジを起動する二つの「スイッチ」。

厳しい環境の中で、「よし！」と思ったきっかけを振り返る。

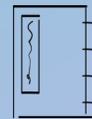
3

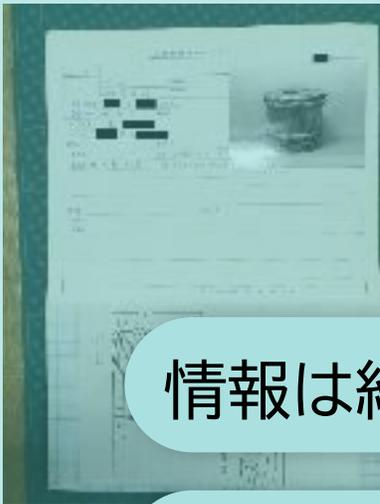
Beyond the role of the “Practical Guide”

「DX実践ガイド」の役割の先に。

初めて取り組む人の「安心材料」として、求められる変化。

1. 「DXどころではない」現場の話





情報は紙のカード

台帳・目録と資料が一致していない

受入時の起案文書に添付された表だけが頼り

目録が全くない

起案文書は年度別にファイル

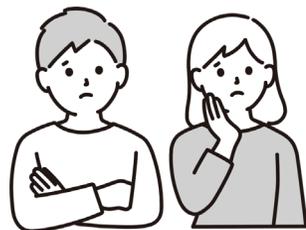
収蔵庫が未整理でどこに何があるか不明

受入年度にあたりを付けられないと探せない

最近は、担当が個人としてExcelでリストを作っている館が多い（肌感覚）

今いる人がサボってるわけではないけど、どうやって仕事してるんだろう？

現場職員は全員、
期間3～5年の
非正規職員



自分の代では
終わらないから
着手しない。

在任中は手を出さず、
将来にゆだねる。



無理のないことです。

数万点の資料を所蔵、学芸員数人の某館

台帳・目録と資料が一致していない

一人の若手が意を決して開始



1万点以上の現物
確認と目録作成を
終えるも、任期ま
であと3カ月

後任の人、続きをやってくれる？

今いる人がサボってるわけではないけど、どうやって仕事してるんだろう？

こんなときには。

- 一部でも公開する。
- 毎年少しずつ追加公開することを、館として対外的に公表する。
- 複数分野、複数の担当がいる場合、画像や解説付きで1分野年●点、ひとり年●点とルール化。
- 一部公開したデータを誰かが利活用する道筋を付けておく（「利用者の期待」をエンジンにする）。

**DX実践ガイドを
後任の人の手元に。**



数万点の資料を所蔵、学芸員数人の某館

台帳・目録と資料が一致していない

一人の若手が意を決して開始



1万点以上の現物
確認と目録作成を
終えるも、任期ま
であと3カ月

後任の人、続きをやってくれる？

トップ

資料情報のデジタル化を歴代、先送りしてきたが、私の代で実施したい。勉強会をお願いします。

1万点の資料を所蔵、学芸員2人の某館

目録が全くない



勉強会終了後

現場の若手

僕は難しいと思ってます。





現場の若手

モノに当たりながらなので、
1日10点が限度。万単位なん
て無理に決まっていますよ...

1万点の資料を所蔵、学芸員2人の某館

目録が全くない

わたし

そりゃ
そうだ



「コツコツ作戦」も
DX実践ガイドに。

ひとり学芸員でも頑張る

予算却下

子育てとの両立

在宅介護が始まる



ちゃんとしたシステムを入れたい

Excelでリスト作り

それは無理…

公開や画像管理を考えるとExcelだけでは無理

それでも、ひとり学芸員

じゃあOmekaとか勉強する？

結局Excelのまま

こんなときには。

- Excelのまま、いまできる範囲で大丈夫。無理しないで。
- ただ、将来に備えてデータベースとして扱いやすいExcelとしておくことが重要。
- セルを結合しない、人物、日付や寸法などの表記ゆれを防ぐ...など。

そういう情報も
DX実践ガイドに。



子育てとの両立



在宅介護が始まる



それでも、ひとり学芸員

結局Excelのまま

とても極端な例だとは思いますが。

ひとり学芸員でも頑張る



子育てとの両立



在宅介護が始まる

こういう状態で担当の企画展も抱えていては

デジタルアーカイブについて、
本格的な作業だけでなく、
そのための情報収集すら難しい
と思います。必要なのは・・・

いまできる最低限のことは何か。
将来環境が変わったときのため
に何をどう準備すればよいか。
・・・という情報。

とても極端な例だとは思いますが。

ひとり学芸員でも頑張る



子育てが始まる



在宅介護が始まる

こういう状態で担当の企画展も抱えていては

そういう情報も
DX実践ガイドに。



あります！

いまできる最低限のことは何か。
将来環境が変わったときのため
に何をどう準備すればよいか。
・・・という情報。

私が思うDXガイドの課題と役割

手っ取り早く勘所をつかむことができる手引書。

最近気づいたもう一つの役割

みなさん、やらないといけないと思ってはいる。
あとは背中を押すだけ。ガイドはそのための・・・

スイッチ



**そういう情報も
DX実践ガイドに。**



あります！

いまできる最低限のことは何か。
将来環境が変わったときのため
に何をどう準備すればよいか。
・・・という情報。

私が思うDXガイドの課題と役割

手っ取り早く勘所をつかむことができる手引書。

最近気づいたもう一つの役割

みなさん、やらないといけないと思っはいる。
あとは背中を押すだけ。ガイドはそのための・・・

スイッチ



なぜ「DX実践ガイド」がスイッチなのか？

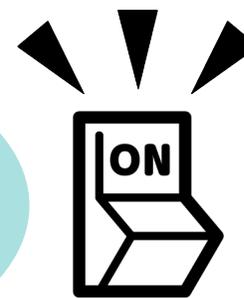
To Be Continued



2. チャレンジを起動する二つの「スイッチ」

最近気づいたもう一つの役割

スイッチ



最近嬉しかったメール
打ち合わせができて
デジタルアーカイブに取り組む

勇気

が出ました

ただ、ちょっと
引っかかりました

デジタルアーカイブに
はじめて取り組むって、
そんなに勇気が要ることなの？

必要なのは
勇気のスイッチ？

デジタルアーカイブに必要な「勇気」とは？

デジタルアーカイブに必要な「勇気」とは？

勇気が出ない状況

予算は補助金で目途が立つかもしれない。人は大変だけどいいわけではない。でも一歩踏み出せない。でも「勇気」が出ない...という人の状況って...

どうしていいかわからない

やり方がわからない

経験がなく、知見がない。

先が見えない

膨大な量に圧倒され、いつ終わるか見通せず、暗い海を泳ぐような心境。

やっていく自信がない

「勇気が出ました」というメールが届いたときの様子

勇気が出た状況

- 打ち合わせで疑問や不安を一問一答で解消。
- 初年度、2年目、3年目と、段階を踏んでやっていく計画の青写真を共有。

やり方がわかった

こんなときどうする？はなんとなく見えた

先を見通すことができた

一気に呵成にはできないけれど、少しずつでも前進している自分（自館）が想像できた

勇気

なんかやれそう、と思えた

着手する「勇気」の正体



DX実践ガイドが「スイッチ」のひとつに。

個人の感想（願望）です



その他、私が見かけたDX実践ガイドの「活躍シーン」

－ 上長に説明する際の根拠資料に

上長は全く異なる部署から着任したばかり。行政マンなので説明にできれば公的な根拠資料が必要。文化庁の名前で発行されているので、「ここに書いている通り...」という説明に重宝します。



ー 同僚にも共有し、みんなでレベルアップ

館あげてデジタルアーカイブに取り組むので、DX実践ガイドを同僚にも共有し、みんなで勉強することで作業品質の均質化を図りたいと思います。



－ NPOでデジタルアーカイブに取り組むときの教材に

75歳以上の高齢者で構成されるNPOが地域の文化財のデジタルアーカイブに着手しようとしています。開始にあたり、みんなデジタルは得意でないので、印刷したものを配布して勉強会を実施しました。



さらに役割を強化するには？

やり方 ON

=

情報



困ったら見るものが手元にある

勇気

安心感

To Be Continued

スイッチの役割を果たしている

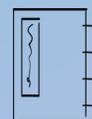


●年後
という

3. 「DX実践ガイド」の役割の先に。



3. 「DX実践ガイド」の役割の先に。



ここからは、もし「ミュージアムDX実践ガイド」を改訂、
増補する機会があるとしたら...という「仮定の話」です。

デジタルアーカイブに着手する「勇気」の正体

安心感

困ったら見るものが
手元にある

●年後にはこのくらいは行けそう...
というアバウトなプランが描ける

「DX実践ガイド」が「新規着手館」にさらに貢献するには

安心感の強化

- 「ギモン」の幅を広げる。でも深さは追及しない。
- 複数パターンのモデルプランも「ギモン」に。

安心感の拡散

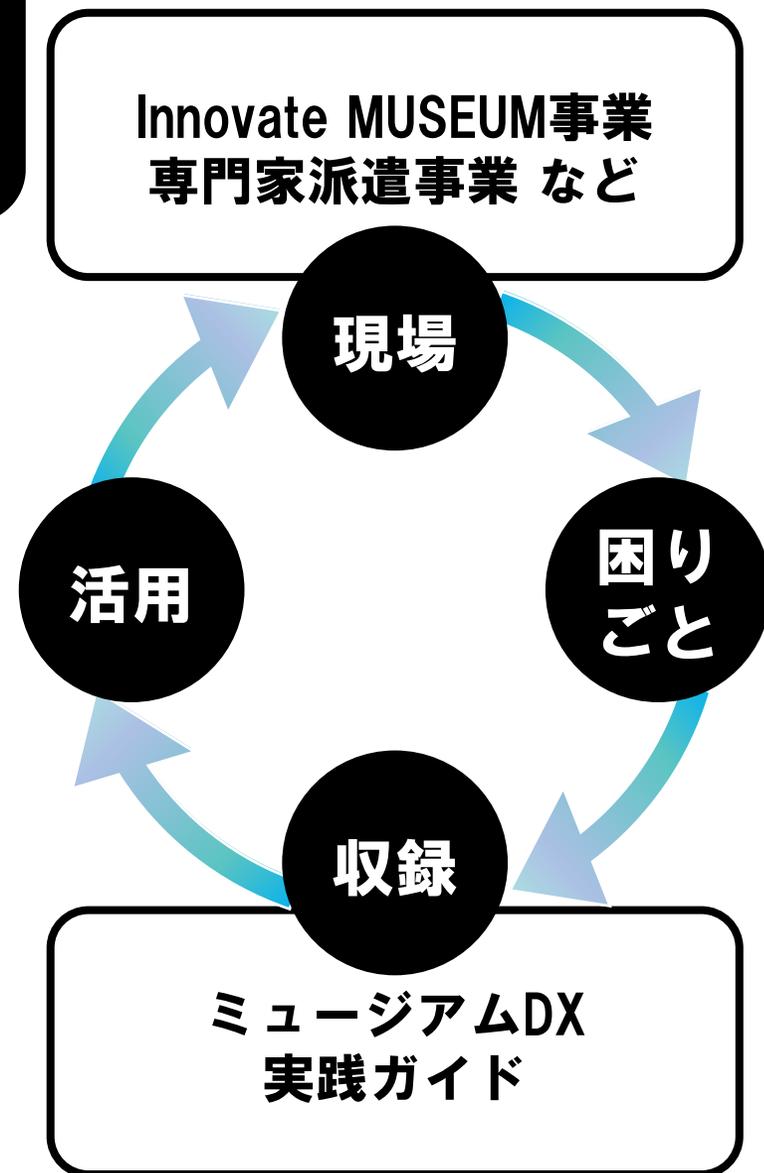
- 「DX実践ガイド」の認知の拡大を図るための方法として、リンク可能なWebサイト化。他媒体の記事からリンク。

安心感の強化

体系的に学ぶためのものではなく、現場で始めた人が困ったときに見るもの

「ギモン」の幅を広げる。
でも深さは追及しない。

- 掲載するノウハウ情報の数を増やす。
- 対象は「始めたばかりの現場でつまづくこと」に限定する。専門的な説明は別のメディアに任せる。
- 新「ギモン」の入手ルートは現場でなければならない。どうやって現場から入手するか？が課題。
- 文化庁の関連事業を入手チャンネルに。



安心感の強化

「この進め方なら、うちにもできるかも」を増やす

複数パターンのモデルプランも 「ギモン」に加える

- 架空の博物館のモデルプランを策定し、掲載する。
- モデルプランには、館の規模、開始前の状態、目標、目標到達までの課題、実施体制（人員）、実施期間などが異なるものをできるだけ多く用意し、「自館に近いパターン」が見つかりやすい「プラン集」とする。
- 実際の取材記事でも可。



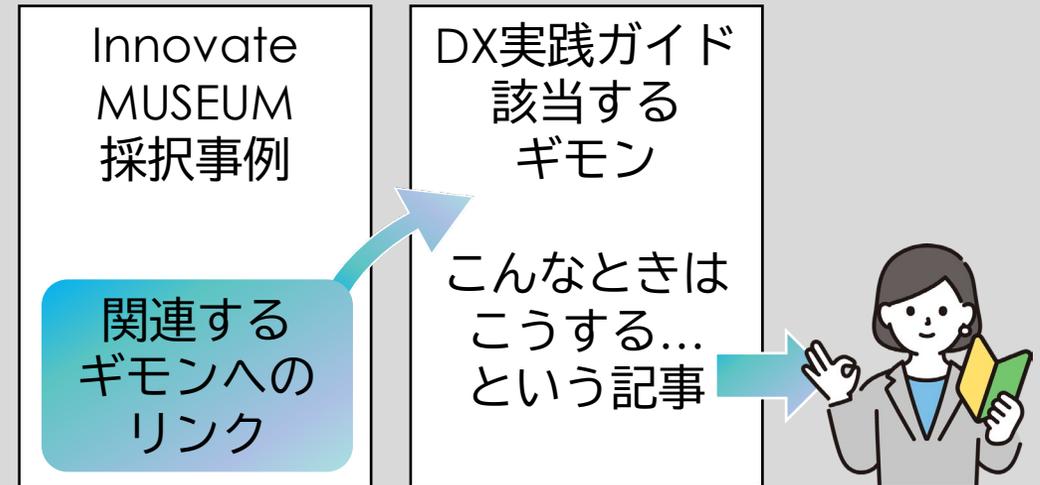
安心感の拡散

冊子でなく、記事ひとつひとつを「入り口」に。

リンク可能なWebサイト化。 他媒体の記事からリンク。

- 「DX実践ガイド」を、1ギモン1記事のブログのようなWebサイトに。
- ギモンを検索しやすく。またスマホでも閲覧しやすくなる。
- 「ギモン入手チャンネル」である各現場に関する別のWeb記事などからのリンクで、「DX実践ガイド」の参照機会、利用機会を増やす。

たとえば、こんな動線



デジタルアーカイブにこれから着手する人が「作業上」「手続き上」見るページに、DX実践ガイドへの動線を作っておくことで、触れる機会と知識を得る機会を提供する

「DX実践ガイド」は

安心感

困ったら見るものが
手元にある

●年後にはこのくらいは行けそう...
というアバウトなプランが描ける

安心してデジタルアーカイブに取り組む
ことができるようにするためのもの

安心感の強化

安心感の拡散

3. 「DX実践ガイド」の役割の先に。

すべての博物館が安心して、勇気をもってデジタルアーカイブに取り組むことができるようになれば、「ミュージアムDX実践ガイド」は要らなくなります。そのときに必要なのは、より専門性の高い情報であるはずですから。

ま
と
め

「ミュージアムDX実践ガイド」を
執筆した私たちの役割は、
「ミュージアムDX実践ガイド」が
不要になるために努力すること…
なのだと個人的には思っています。